

大きな変更点

私立高校の入試が終わりました。今年度は、コロナの影響を受けた受験生に配慮がなされるという大きな変更点がありますが、私立も公立も入試そのものに変更はありません。しかし、入試を毎年経験している私たち教師にとっては、大きな変更点がありました。それは何か、あなたにはわかりますか

それは、入試当日の中学校の職員の引率が不要になったということです。入試だけではありません。夏休み中に開催された高校体験入学もそうでした。これまでは、当日の朝に引率者がその高校に向き、生徒を集めて点呼したり持ち物や健康状況を確認したりしていました。緊張して現地に集まる生徒は、そこに知っている顔があることを心強く感じたことでしょう。

引率が不要になったことの理由は何だと思えますか。今の世の中の状況からすると、感染予防策の一つとして中学校ごとに集まることを防ぐためということが考えられます。昔は他校の生徒とのトラブルや問題行動が心配されましたが、今は大丈夫という判断があったのかもしれませんが、「働き方改革」という点から言っても、中学校の教員の負担を軽減するためということもありそうです。いずれにせよ、「引率するのが当たり前」を経験した人にとっては、しっくりこないことでしょう。「先生たちは楽になっていいなあ」と考える人もいるかもしれません。

しかし、私は「これが当然」だと思います。岐阜県の教員になってからずっと、「手厚すぎるんじゃないか」と思っていたというのが正直な気もちです。当日は何時に家を出るか。何時何分の電車（バス）に乗るのか。お目当ての高校までどのように行くか。体調や持ち物は万全か。遅刻しそうになったり事故に遭ったりした時どうするか。これら全てが入試なのですから、それらに対処できる力をつけた者が進学すべきだと私は思います。

「えっ、中学校の先生が高校に行くの？こっちでは入試当日はもちろん、出願の時も生徒だけだよ。」

県外に嫁いだ私の妹が、岐阜県の相変わらずの手厚さにびっくりして言いました。自分も中学時代に手厚く配慮してもらったはずなのに、県外に出て、それが普通ではなかったと気付いたようです。

高校というところに、過度な緊張を感じる必要はありません。引率なしになったのは「何かあったら中学校に連絡しますから、大丈夫です。（高校に）任せてください」と高校が言ってくれたからです。試験そのものは厳格に行われるとしても、それ以外は、中学生であることを十分理解してくれているということですからね。

不測の事態が生まれた時には、中学校の職員に相談するように、高校の職員に相談してみればよいのです。その時に、態度や言葉遣いがそれにふさわしいものでないといけませんね。その力も、中学時代につけておくべきものです。

（二月七日 記）